

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
子どもの保健 Child Health		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成課程必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
乳児保育Ⅰ、発達心理学				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長谷川久美子	講義棟1階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
子どもの健康の保持増進および安全の確保は、保育活動の根幹となる。①保育者の健康管理、②子どもの発育評価（身体計測・生理機能測定等）および健康状態の観察、③子どもの心身の状態や発達過程を踏まえた保健的対応、④子ども集団全体の安全対策の実施と救急時の対応を主たる授業内容とし、子どもの健康と安全に係わる基本的な知識と実践力の修得を図る。				
授業の目標				
①保育者の自己管理とその必要性について詳細に説明することができるようにする。②発育評価演習（成長曲線の作成、身体計測、生理機能測定等）の意義や目的を確認し、基本的な保育技術を身につけることができるようにする。③子どもの病気や体調不良時など、状況に応じた適切な対応ができるようにする。④子どもの応急処置における留意点を正しく認識し、救急時に生かすことができるようにする。				
授業の方法				
講義、演習、実技指導、事例紹介、DVD視聴などを取り入れ保育の基本的な知識・技術の修得を図る。保健演習では演習目的を確認し、終了後に反省点と実技を通して体得したことをまとめ、レポートを作成し提出する。				
学習の成果（学習成果）				
①乳幼児の発育発達、基本的な保育や養護の内容について十分認識し、健康支援や発達支援に役立てることができる。②日常の健康観察が、子どもの病気や異常の早期発見につながることを正しく認識し、保育活動に生かすことができる。③健康問題の解決や救急時の対応に向けて、的確に判断し落ち着いて行動することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の概要説明と実習について）			
第2回目	こどもの養護に必要な保健演習の意義と基本			
第3回目	子どもの保健と保育者の保健	保育者の健康管理		
第4回目	子どもの保健と環境	乳幼児の養護		
第5回目	乳幼児の身体計測	身体計測の意義・計測時の注意事項と方法		
第6回目	身体発育評価演習	演習問題（発育指数の計算、成長曲線による評価）		

第7回目	身体発育評価	発育経過からみた評価の仕方	
第8回目	身体計測演習	乳幼児の身体計測の実際と記録	* 実習室へ移動
第9回目	乳幼児の生理機能の測定	生理機能測定時の注意事項と測定方法	
第10回目	生理機能の測定演習	生理機能測定の実際と記録	* 実習室へ移動
第11回目	乳幼児の精神・運動機能発達の評価	評価の方法 (感覚の発達検査)	
第12回目	乳幼児の異常症状と症状別対応①	保育における主な症状の見方と対応 (体調不良時のケア)	
第13回目	乳幼児の異常症状と症状別対応②	保育における主な症状の見方と対応 (薬の使い方)	
第14回目	子どもの事故と応急手当	乳幼児の事故の特徴と応急処置・心肺蘇生法	
第15回目	集団保育と保健	集団保育と保健対策・事故防止安全対策	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業での不明な点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問すること。		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	10%	教材を常に準備して臨んでいる。不明な点があれば積極的に質問する。演習では主体的に行動し、グループメンバーと協調して積極的な姿勢で臨んでいる。
	レポート	30%	出題者の意図に合致したものとなっている。また、詳細に課題を探究し、内容構成も優れており課題の要件を満たしている。
	調査報告書		
	小テスト		
	試験	60%	記述式で設問内容の要件を満たし、授業内容が正確に表現されている。学期末定期試験の評価基準C (60-69) 以上とする。
	発表内容 (態度含む)		
	その他		
教科書と参考図書			
教科書：「子どもの保健演習ガイド」建帛社 参考書・参考資料：授業の中で適宜指示またはプリント配布 母子健康手帳			
履修上の留意点・ルール			
●実務経験 (職種：看護師・看護学校専任教員 職歴：通算13年) 目的意識・課題意識を明確にして授業に臨む。遅刻厳禁。			